

we design your home and life style. impression for life, to you.

伝承する家

-ふたつの家のモノ語り-

モノの命をつなぐ、
家族の記憶を継ぐ

家族の夢を詰め込んで、
新しく建つ家。
家族の思い出を刻み込んで、
消えていく古い家。

ふたつを結ぶモノがある。
新しい場所と役割を与えられたモノは、
一族の歴史と時きたりを
静かに語り継いでいく。

ふたつの家の“家宝”を
尋ねる旅に出た。

◎取材協力/Kasama邸、Kosama邸



習わしを継ぐ

家紋を 染め抜いた暖簾

暖簾には、商いの種類ごとに定められた色があったという。そこに屋号や商標を染め、店先に掲げた。函館市元町にかつて、造船業を営む商家があった。家は取り壊されたが、残ったものがある。それは、正月に家紋の入った暖簾を玄関先に掛ける習わし。玄関ホールに新しい場所を得た暖簾は、いまも年の初めを寿ぐ。

素材を継ぐ

白の窓枠

愛犬ニュージールランド・ハンタウェイの部屋の窓枠は、年代物だ。解体された家の木材を加工した。総檜づくりの日本家屋は、形を変えて生き続けている。



思いを継ぐ

達磨

由緒は知らない。達磨は父親のお気に入りだったと、家主は言う。偉大だったお父さんの大切にしていたものを残したかったと、家主の妻は言う。親の思いがここかしこに残る家である。



素材を継ぐ

梁

二十年ほど前、青森に若い職人がいた。ある日、彼の腕と人柄を好ましく思っていた男にスカウトされる。少し迷って、新天地に渡ることを決意した。いつか、家族を持ち、ベテランとなった職人は、家を建てた。どうしても使いたかったものがある。八戸にあった伯父の家の木材。廃棄を免れた木は、リビングによみがえった。



インテリアを継ぐ

壁掛け鏡

歴史的な街並みが残る函館市元町。昭和9年に建てられた家があった。総檜づくりの日本家屋。しかし、洋間があって、壁に大きな鏡が掛かっていた。その下に引き出し式のベッド。ベッドルームの姿見は、平成のいま、輸入住宅の洗面所で家族の日々を映している。



調度品を継ぐ

透かし彫りの衝立

古来、間仕切りや目隠しとして使われてきた衝立。親から受け継いだというそれは、夏になると、涼しげな顔をして、玄関ホールで来客をもてなす。



13年目のDÉCO
ある夫婦と家のおはなし

時間を重ねて、
家族に
なりました。

桜ヶ丘通に近い住宅地にイン
ターデコハウスが建ちました。
それは13年前の冬のこと。
夫婦は、家がまだ図面だった
ころから、とても愛していま
した。いちばん多くの時間を
過ごしたアイランドキッチン
も、冬は暖かくて夏は涼しい
テラコッタタイルの床も、玄
関と部屋を仕切るガラスブ
ロックも、どれもわが子のよ
うに慈しんできました。欠け
たり汚れたりしても、それは
味になり、愛おしさは増した
といいます。
ライフスタイルの変化に伴う
改築は想定しました。いろん
な未来を想像しては、楽しみ
ました。でも、家に手を加えたい
と思ったことは一度もない。
ふたりは、素のままの家が好
きだったのです。
それは突然でした。仕事の
変化が夫婦と家の別れを連れ
てきました。
春浅き日、ふたりはいつも以
上に家を磨きました。木目も
ドアノブも可愛くてたまりま
せん。過ぎし日を思いながら
祈ります。「この家が、愛して
くれる家族とまためぐりあえ
ますように」。

my sweet house

owner's interview

vol.8

owner
Hさま

ニシン漁と 北前船の町に、 インターデコハウス。



男が惚れ抜いた家は、 いきなりオープンハウスに。

アメリカンテイストが好みだったというHさま。函館で見かけたインターデコハウスに一目惚れしました。オープンハウスを訪ね歩き、30軒以上は見学したといいます。「塗り壁と窓、瓦の屋根が気に入りました。アイアンを使ったパーツも良かった」と、当時を振り返ります。それから9年。「汚れやサビも味わいとして楽しめる」と話してくれました。Hさまの暮らす町は、北海道最古とされる姥神大神宮渡御祭で有名。期間中は住民が自宅トイレを観光客に開放する伝統があるのだとか。外観に惹かれてHさま邸を選び、見学までする人が少なくないそうです。祭りがくると、オープンハウスが始まります。

小さな土地に建った 大きな家の秘密。

坂を登ったところにあるHさま邸は、堂々として大きく見えます。しかし、意外にも土地は約32坪と広くはない。「提案されたプランは、部屋がとても大きく見えました。いろんな工夫があって、リビングの位置もその一つ。2階にすることで、部屋数を確保しながら、吹き抜けを実現できました。広々と感じるうえに、天窓から光が差し込むので、明るいのです」。一番の悩みだった収納も、不都合はないといいます。積み重ねた工夫が、大きく感じる家をつくったのです。



ダイニングテーブル(オーク材)もイスもアンティーク。だからこそできると薦められて、イスは形の異なる4脚を選んだ。キッチンの天井はもちろんタイル

リビングルームに出現、 矢沢部屋と世田谷ベース。

リビングルームの一角に「矢沢部屋」があります。そう、Hさまは大の矢沢永吉ファン。永ちゃんグッズを集めたスペースをつくりました。

その対角線上にあるのは、趣味の部屋。パソコンのほか、筋トレ用の鉄アレイや楽器などが並んでいます。イメージは、所ジョージの世田谷ベースなのだそう。DIYグッズも充実。なんと、自分でアンティーク調のインテリアまでつくってしまうというから驚きです。エアブラシを自在に操ってエイジング加工を施した品々が、家のあちこちを飾っています。

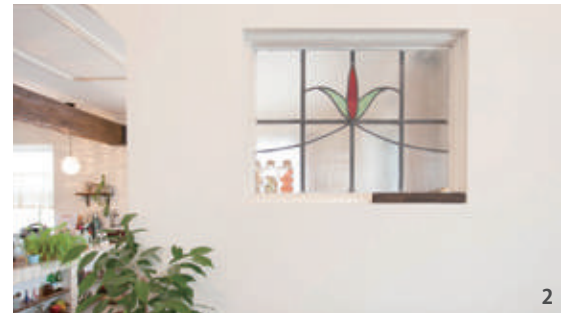


趣味の部屋と「矢沢部屋」

ブログに昇華された あふれるデコ愛。

Hさまは、隣が実家ということもあり、工事中は毎日現場に顔を出したといいます。「大工さんといろんな話をしました。アドバイスをもらって、変更したこともあります。ニッチや窓は、もともとの設計と少し違ってはいますね」。職人やスタッフと会話を重ねながら、少しずつ形になっていく家。それは、まるでわが子です。子どもの成長をアルバムに残すように、家の完成までを自分のブログに残しました。

「E☆Ycafe LIFE (IDH)」で検索してみてください。Hさま邸の成長記録がご覧になれます。



1.広々としたリビング 2.アンティークのスタンドグラス。リビングとダイニングの間の壁に設えた 3.子どもたちの部屋の上部にはそれぞれ、ガラスブロックを取り付けた。電気の明かりで、在室がわかる 4.洗面所の棚やニッチにも、品よくタイルを使っている 5.リビングのテーブル。座卓をエイジング加工してつくった

今回のsweet houseは <インターデコハウス> INTER DÉCO HAUS

このブランドのコンセプトは、「わたしらしく」な家づくり。好きなものに囲まれて暮らせば毎日があわせと考え、好きを基準に空間をつくっていきます。かわいらしくデコラティブな家を理想としている方に好まれています。



ハコダテノ建テモノ

hakodate architecture spot

函館の大火が生んだ日本初！ 鉄筋コンクリート造りのお寺。

函館の風景をつくっている建築物をマニアックに調査する！
今回は「真宗大谷派 函館別院（東本願寺）」、お話しは大野 成道さんです。

なぜコンクリートを使ったのでしょうか。

函館は火事の多いまち。函館別院も、前身の浄玄寺のときから何度か焼失しています。明治40（1907）年の大火では全焼。信仰も函館の発展も阻害されることを憂えて、燃えない本堂の建立が切望されたようです。そこで、材料として浮上したのがコンクリート。記録によると、発案者は当時の檀家総代・渡邊熊四郎（金森合名会社三代目）です。とんとん拍子に進んだかというところかなり難儀したようですね。

当時のエピソードを教えてください。

基礎工事は順調だったものの、コンクリートが見え始めたころから、檀家さんから反対の声が上がり、寄付金がストップしてしまいました。反対の理由は三つ。「泥土のようなコンクリートは不浄だから」「いかにも脆弱で崩壊しそうだから」「本堂を得体の知れない泥で造っては仏様やご先祖様に申し訳ないから」と、現代では考えられないものばかり。鉄筋コンクリート造が新技術として日本で注目され始めたころなので、理解されないのもしかたないことですね。では、どうしたのか。PR活動を始めたのです。工事中の建物をイルミネーションで飾り、上棟式と称して宴会や余興を催し、芸妓たちにまちを練り歩かせました。そこに集まってきた人々に、コンクリートの良さと荘厳で美しい本堂ができることをうったえたといいます。それが功を奏して、無事に竣工しました。

どういう造りになっているのか、教えてください。

簡単に言ってしまうと、コンクリートの外枠に木造の本堂がすっぽり納まっています。地下と1階は鉄筋コンクリートのラーメン構造（柱と梁が剛接合した構造）で、その上に鉄骨の小屋を組み、さらにその上に鉄筋コンクリート造の屋根をのせた造りです。昭和9（1934）年の大火を免れて、いまに至ります。

真宗大谷派 函館別院 （東本願寺）

ご本尊は阿彌陀如来。明応8（1499）年建立の浄願寺を起源とし、明治9（1876）年より函館別院と称される。現在の本堂は、大正4（1915）年に完成。2007年、国の重要文化財に指定。■アクセス／市電・十字街下車、徒歩8分



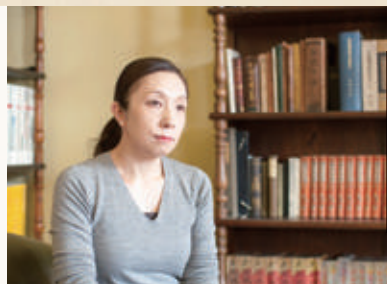
1. 本堂の中。グレーの柱と梁はコンクリート、その奥のご本尊を安置する内陣や天井は木でできている 2&3. 内陣の台座の細工。いまでは失われてしまった技術も。立体的な獅子の像も珍しい 4. 二十間坂から見る本堂。特徴的な屋根は、鉄筋コンクリート造の屋根の上に瓦をのせている 5. 懸魚（げぎょ／写真右上のハート型のもの）などの意匠や柱、垂木はモルタル 6. 細工が施された白っぽい扉は鉄製

Own Style

02 カフェ&デリマルセン

異文化の交わる空間。

この世界には、愛情を持って生み出され、それ故に、人を幸福にするものがあります。マルセンもその一つ。
ルーツは、かつて湯の川温泉にあった丸仙旅館の和風カフェです。もともと音楽ライブを開催していましたが、現在地に移転してからは、さらに文化の発信地としての存在感が強まりました。興味深いのは、イベントと料理の融合。映画の上映会には劇中の料理を再現したもの、キューバ音楽のライブにはキューバサントラム酒、アフリカのパーカッション演奏なら豆のカレーを提供するというふうに、趣向を凝らしているのです。異文化の交わる函館の、異文化の味わえる空間。人生のひとつときを過ごしてほしい場所です。



マダムの佐藤綾子さん。「昭和45年ごろまで、このビルの最上階にコンサートホールがありました。多くの函館市民には懐かしいホール。ここは函館の文化の発信地だったのです。いまは観光のメインストリート。だから、音楽の流れるお酒と料理が楽しめる場所があってもいいなと思うのです」



Cafe & Deli MARUSEN
函館市大手町5-10 ニチロビル1階
TEL. 0138-85-8545 定休日 なし
営業時間 ブレックファースト 9:00~11:00
ランチ&カフェ 11:00~18:00
(L.O. フード17:00、ドリンク17:30)



あるライブの一幕。天井が高く、音がよく響き、ミュージシャンの評判もいい。建物の雰囲気、欧米のようにも東南アジアのようにも見える「どこかの外国」みたいだから、どんな音楽も似合うと佐藤さんは思っている

Çava?

アンティキテで会いましょう

beus news

桜が丘通に小さく掲げた木製の看板に誘われて、立ち寄る人が増えてきました。

移転オープンからまもなく1年の「アンティキテ」——

お元気かしら?madaマダムよ。今日は、パパとママに連れて来られた小さなお客さまが多いわね。つくづくこのcaféをやって良かったと思うわ。もともとご近所の人たちのための場所にしかかったの。息抜きでも何でも気軽に寄ってほしくて。少しずつ、皆さまのくつろぎの空間になっているのではないかしら。あなたも自慢のコーヒーを飲みにいましてね。レトロでおしゃれなジャズを流して待っているわ。



9種のドリンクを扱う

写真はキャラメルラテ380円



昨年12月に広げたカフェスペース



家具・照明器具、インテリア雑貨 & CAFE

ANTIQUITÉS (アンティキテ)

函館市柏木町1-12 1階

営業時間 11:00~19:00 定休日 火・水曜日



マダムの日常は、フェイスブックページをチェック。

家具・照明・雑貨とカフェ<アンティキテ>

ホビーのススメ



今回の推薦人
安岡 冴

中学生のときから洋楽派。
ジャスティン・ビーバーが好き

hobby 8: トロンボーン

だから、おすすめします!
音が鳴る、音楽になる。

小学校3年生から高校3年生まで、吹奏楽部でトロンボーンを吹いていました。きっかけはスカウト。部員が少ないからと姉のいた吹奏楽部に誘われて、手が長いからとトロンボーンに決まったのです。

最初は、マウスピースを鳴らす練習から。小学校も中学校も、吹奏楽コンクール全道大会に出場する強豪校で、練習はなかなかハード。大会前は、休みの日も朝から晩まで練習でした。中学校は部員が多く、出場者を決めるオーディションまでありました。8月のコンクールシーズンになると、吹きたくなりますね。社会人の楽団に入って、また友人たちと一緒に演奏できるといいなあと思っています。



懐かし一枚:
小学校時代のコンクール

中央奥が安岡。コンクール課題曲では
中学校のときの「ハンガリー民謡『く
じゃく』による変奏曲」が好きだった

みさおの玉手箱

ポーラ美術館・企画展

ルソー、フジタ、写真家アジェのパリ
—境界線への視線—

日中戦争時にフジタが制作した多数の戦争画は、美化されたものではなく、リアルな情景でした。しかし、戦争協力者の汚名を着せられ、既にヨーロッパで活躍していたことで嫉妬され、強く非難されてしまいます。傷心の彼は、パリへ。二度と日本に戻りませんでした。ピカソに「天才」と言われたフジタは、裸婦や猫の絵で有名。今回の企画展では、晩年に多く描いた子どもの絵に焦点を当てています。ところで、このポーラ美術館、箱根の山奥にあるからといってなめちやいけません。国内最大級のフジタ作品のほか、看板娘のモネ「レースの帽子の少女」、ピサロ、ドガ、ピカソ、ゴッポ、黒川清輝「野辺」、岸田劉生「麗子像」…圧巻のコレクション!しかも「撮影可」が多い。なんと心の広い美術館でしょう。…話がそれました。フジタの描いた明朗で無垢な子どもたちは、罪人・囚人・痲痺持ち・狂人・守銭奴など、貧困層や裏社会に生きるアウトローを表現したもの。独特の優しいユーモアの中に風刺が効いています。フジタやルソー、アジェのほか、同時期の芸術家が見た「パリの中にある境界線」がたくさんありました。特にユトリロの不安定な美しさがたまらなく良かったです。

美しく、悲哀とエネルギーに満ちた当時のパリに、また一瞬で連れて行かれたくて、ときどき図録で現実逃避…。才能はあるのに売れない画家と切ない恋に落ち、固いパンを二人で分け合う…あ〜キュンキュンする〜♡ (専務/森山 操)



展示会の図録(著/ポーラ美術館学芸部、発行/公益財団法人ポーラ美術振興財団ポーラ美術館)



丸眼鏡、おかつば、ちょび髭といえは…フジタ(藤田嗣治)!

Happy Birthdayは偶然に。



ギター好きなHさまへ特製のケーキを!

ある土曜日の屋下がり、社内は「ハッピーバースデートゥーユー」の大合唱。お客さまのお誕生日だったのです。打ち合わせの日に重なるとは何という偶然!Hさま、おめでとうございます。すてきな一年を!



あおしま社長の

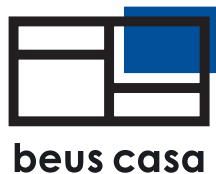
ことのは

代表取締役 社長 青島 康夫

「神様の住まいを訪ねる篇:鳥居」 “玄関”を通るときの作法

地鎮祭・上棟式・神棚と、家まつわる神様の話が完結したので、続いては神様の家、つまり神社の話です。玄関にあたるのが鳥居。ここから先は神様の住まいですよと示しています。ところで、なぜ鳥居というのでしょうか。こんな一説があります。太陽神の天照大神が天戸に籠

て真っ暗になったとき、困った八百万の神々が太陽を呼ぶとされたニワトリを鳴かせます。その止まり木が鳥居になったというのです。ほかには「通り抜けて入る→通り入る→とりの」と変化したという説も。いずれにしても、鳥居をくぐるときは声を出さず一礼するのがマナーです。あまりに無作法ではご利益を期待できないかも…。参拜のときは、行き「ごめんください」と帰りの「お邪魔しました」を忘れずに。



株式会社 ビアス www.beus.jp

TEL 0120-56-0188

〒042-0942 函館市柏木町1-12

TEL0138-56-0555 FAX0138-56-0777

INTER DÉCO HAUS COZY

b.i.v HOMES

b-maison
—ビー・メゾン—